

第3次千葉県青少年総合プラン 令和3年度事業評価シート

事業NO	120
------	-----

事業名	学校を核とした県内1000か所ミニ集会		
担当課・室・班名	教)生涯学習課	問合せ先(電話番号)	4069

1 事業の概要

柱	Ⅲ	基本目標	5	基本方策	⑪家庭・学校・地域の連携					
事業内容	地域住民の声を学校運営に生かす開かれた学校づくりや学校を核とした地域コミュニティの構築を目的として、原則として県内すべて(千葉市を除く)の公立小・中・義務教育・高・特別支援学校等を会場に、学校職員と保護者や地域住民が学校・家庭・地域の様々な教育課題について、膝を交えて本音で語り合う。									
当初予算額(千円)	H30年度	100	R元年度	88	R2年度	0	R3年度	0	R4年度	
決算額(千円)		76		77		0		0		
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
	○		○		○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会ホームページに地域との共催の充実している実践例や新型コロナウイルス感染症対策を行った実践例を掲載した。 ・教育委員や教育庁内職員等が各地区のミニ集会を参観し、ミニ集会の現状を把握するとともに、報告書を作成し参観校に送付した。
--

(2)事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ集会の実施については、新型コロナウイルス感染症の影響により、千葉市を除く県内全ての公立小・中学校、高等学校、特別支援学校、義務教育学校において実施された割合は17.8ポイント増加の51.7%だった。(開催校数:小学校323校、中学校152校、高等学校71校、特別支援学校34校、義務教育学校1校 参加者数:20,326人) ・実施した学校のうち、地域とともに企画運営している割合は、前年度に比べ4.2ポイント減少の72.3%となったが、コロナ禍においても、今まで築き上げてきた学校と保護者、地域住民が一体となった、地域コミュニティの構築の醸成が図られており、連携体制は維持されている。
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、コミュニティ・スクールと同体系の施策に位置付いている。ミニ集会是、多くの地域住民が集まるため、新型コロナウイルス感染症により実施することが難しい状況にある。また、コミュニティ・スクールを進めている市町村についても新型コロナウイルス感染症の影響により、思うように準備が進められていない状況である。 ・コミュニティ・スクールは委嘱された特定のメンバーでの熟議の場である一方、ミニ集会是広い対象のメンバーで語り合う場であり、その意義は異なる。他県にはない千葉県特有の取組であり、2事業を両輪として推進していく必要がある。 ・感染症対策を行い、地域と学校が協力してミニ集会を開催している事例がある。地域との共催の充実している学校の取組をホームページ等で周知していく。 ・取組紹介については、市町村立学校は教育事務所社会教育主事に協力を依頼し連携して行っていく。

○参考

関連指標	[学校と地域との連携] 教育課題について語り合う集会所を地域住民と連携して企画・運営している学校の割合					目標	76.0%
	基準年(H29)	H30	R1	R2	R3	R4	
	66.7%	70.0%	73.0%	76.5%	72.3%		

4 委員意見

--